

第1回 吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会の開催について

平成26年12月24日、徳島河川国道事務所にて、第1回目の吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会が開催されました。

本委員会は、吉野川流域（徳島県内）において、河川を拠点とした生態系ネットワークの形成を図り、自然からの恵み豊かな地域づくりを進めるために、生態系ネットワーク形成の目標や、多様な主体の協働による具体的な事業展開の方策を検討することを目的としています。

第1回の委員会では、委員15名が出席し、委員長に徳島大学の鎌田磨人教授を選んだ後、規約の承認、検討の枠組みの確認、準備会の意見の取りまとめとこれからの進め方について意見を交わしました。

検討はワークショップ形式で行われ、吉野川流域における生態系ネットワークの形成に向けて、守りたい生き物・場所や、想定される利活用プロジェクト、課題等について抽出しました。

【主な意見】

○守りたい

- ・ 生き物等： サツキマスのネットワーク、スジアオノリ、シジミ、河川敷のカヤ・ヨシ、カヤネズミ、アユ、ジンゾク、ナガレホトケドジョウ、川ガキ等
- ・ 場所： 汽水域と点在する干潟、シギ・チドリの渡来地、四国一の清流吉野川、吉野川中上流の竹林、レキ河原潜水橋等

○課題

- ・ 小河川の汚濁、外来種、レンコン畑の縮小、魚道の構造（魚が上りにくい）、パッチン掘り、河川敷での模型飛行機・水上バイク、土砂管理、水辺の楽校などの利用、川を活用した環境教育の子供たちの移動サポート、アドプトプログラムの向上と充実、竹林管理ができていないため治水上も生態系上も劣悪、カワウのコロニー、活動グループのネットワーク化、川の事故、ごみ、川遊びの機会の提供等

○利活用

- ・ 水辺の生物を観察できるスポットの整備、ジンゾク狩り・ジンゾクたらいの復活、身近な水辺の自然再生のモデル（環境教育・エコツーリズム）、アユの利用・料理法、サイクリング・ジョギングロード、カヤック・吉野川下りエコツアー等

今後、3カ年で吉野川流域の生態系ネットワークづくりにむけた目標、基本方針の策定及び事業実施に向けた検討を行います。



検討委員会



ワークショップ